

年間第3主日（神のことばの主日）

福音朗読 マタイ4・12-23

2023.1.22

カトリック高円寺教会

主任司祭 高木健次神父

今日は東京教区ではケルンデーにあたります、とミサの最初に申し上げました。東京教区とドイツのケルン教区は姉妹関係にあり、1月の第3日曜日は東京教区におけるケルンデーとなっています。来週の日曜日がケルンにおける東京デーです。両教区の姉妹関係がどのように始まったかはご存じの方も多いと思いますが、この出来事については記憶し語り伝えなければならないと思いますので、あらためて申し上げることにいたします。

第二次大戦によってドイツのケルン教区も、あの有名な世界遺産の大聖堂をはじめ大きな戦災を受けました。その時のケルン大司教でいらっしゃったフリングス枢機卿は、ケルン教区の復興のために他の教会を援助することにされました。そして同じように敗戦国で壊滅的な状態にあった東京の教会を支援することとして、ケルン教区の人々に協力を呼びかけられたのです。こうしてケルン教区の援助によって、現在の東京のカテドラルをはじめ教区内にいくつもの教会が造られました。これがケルンデー、ケルンと東京の姉妹関係の始まりということになります。

注意しなければならないのは、フリングス枢機卿はケルン教区の復興のために、東京教区への援助を呼びかけられた、ということです。復興が一段落したのでよその教会を援助しようとしたのではありません。実際に、自分のところも大変なのになぜよその教会を援助するのか、という反対の声は多かった、と言います。これに対し、枢機卿は「あるからとか、余力があるからあげるというのでは、福音の精神ではありません」とお答えになったということです。

このことから、フリングス枢機卿が復興したかったのは、教会の建物ではなく、福音の精神を生きようとする教会の心だったことがわかります。それなくしては建物が修復されたとしても、教会が教会ではなくなってしまうことをフリングス枢機卿は心配されていたのだと思います。

ケルン教区は教会の歴史における大先輩です。この大先輩がその行動によって教えてくれた、教会は何を大切にしなければならないかということ、東京教区全体としても、また信者個人としても忘れてはならないと思います。それはどんな時にも、とりわけ自分が困難にある時こそ福音の精神を生きる、ということです。「福音の精神

を生きる」とは、イエス様と共にあり、イエス様のやり方に習おうとすることです。そこで、今日のミサのもう一つのテーマであります「神のことばの主日」につながってきます。これは、カトリック教会全体の主日です。教会全体が神のみことばがとても大切であることを思い起こす日として、フランシスコ教皇様が年間第3主日を毎年「神のことばの主日」とすると2019年の教書で定められました。ですから、2020年以來、今年が4回目に当たります。

イエス様と共にありイエス様のやり方に習うためには、聖書を通してイエス様の生き方を思い起こさなければなりません。でも、これは単なる聖書の読書の勧めではありません。聖書のみことばを、昔の読み物としてではなく、自分に向けられた神様のことばとして受け取るために、まず復活した主であるイエス様ご自身がわたしたちの心が開いてくださった、そのお恵みが先にあります。復活した主の恵みによって、聖書のみことばを通してわたしたち自身が、イエス様に出会い、そのお姿に触れて、変えられていくのです。何に変えられていくのでしょうか？ それは、神様がお造りになった本当の人間へと、本当の自分自身へと変えられていくということです。

今日の福音ではイエス様が最初の弟子たちをお呼びになった場面が朗読されました。わたしたちも、ペトロやアンデレやヨハネやヤコブのようにイエス様に呼ばれました。そしてイエス様の生き方に触れて、胸を熱くして、この方と共にいたい、この方のようにしたいという希望をいただいたはずです。その希望の光は自分にとってはとても小さく見える、あるいは揺らいでいる、自分の中では消えそう。そう思っても、それは主ご自身によってともされた光ですから、消えることはありません。「光は暗闇の中で輝いている」とヨハネ福音書が言っている通りです（ヨハネ1・5）。わたしたちそれぞれが、それぞれの場で福音の精神を生きることができるよう、そのためだったらいくらでも助けてくださるイエス様に信頼して、このごミサをとおしてそのための恵みいただきたいと思えます。

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>